

ひたちなか市議会だより

みなさん、「火の用心」していただけますか。

もくじ

No. 104

平成31年1月25日

新年あいさつ 2

審議案件の紹介 2

一般質問 3

討論、人事、請願・陳情、
特別委員会調査報告ほか... 9

市民のこえほか 10

新年ごあいさつ

市民に親しまれる議会を目指して



議長
清水 立雄

明けましておめでとうございませう。皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年議会活動への市民参加をお願いいたしました。そのためにも、開かれた議会、親しまれる議会を一步でも進めて参りたいと思っております。議会報告会への積極的なご参加や本会議・委員会などの傍聴もお願いいたします。皆様のご多幸をお祈りし、より一層のご鞭撻とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二元代表制の一翼を果たす



副議長
深谷 寿一

皆様方には、お健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。本年は平成時代が終了、茨城国体開催、本市合併25周年と大きな節目の年になると思っております。市議会としても、市民の皆様へのニーズをしっかりと汲み上げ市政に生かすことで、二元代表制の一翼を果たして参ります。皆様には、本市の更なる発展のため引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

ひたちなか市議会議員

清水健司	鈴木道生	清水立雄	樋之口英嗣
所内茂樹	宇田貴子	三瓶一武	打越浩
大内健一	山形由美子	深谷寿一	安井坂雄
弓削仁男	加藤恭子	武井宏安	井坂章
海野富二	雨澤一隆	薄内聖元	
北原尚之	鈴木谷隆	大内良元	
岩本尚之			(議席順)

市議会議員は、公職選挙法の規定により年賀状を送ることが禁止されているため、本紙面上をもって年頭のごあいさつをさせていただきます。

12月定例会で 次の案件が提出されました。

● 会期：12月11日～12月26日

今回の審議件数は

- 議案：7件(原案可決6件、同意1件)
- ※報告：1件(承認1件)
- 諮問：3件(同意3件)
- 請願：1件(9ページを参照)
- 陳情：5件(9ページを参照)
- 計：17件

今号ではこの中から3つを左に掲載します。

〈議案第95号〉 平成30年度ひたちなか市一般会計補正予算(第3号)

奨学金返還支援補助金について、4月から申請を受け付け、順次補助の決定を行っていますが、今後、補助金の不足が見込まれることから、所要の経費を増額します。

「小中学校等の施設整備事業」
小中学校および幼稚園において対応を要する既存ブロック塀の撤去や改修等の安全確保対策に要する経費を措置します。

〈議案第99号〉 高場雨水11号幹線管きよ布設工事2工区請負契約の締結

浸水被害の早期解消のため雨水幹線管きよ布設工事について、一般競争入札により特定建設工事共同企業体と契約を締結します。

一 般 質 問

市の事業などについて、
執行状況または将来の方針、
課題などを議員が直接質問しました。

質問者

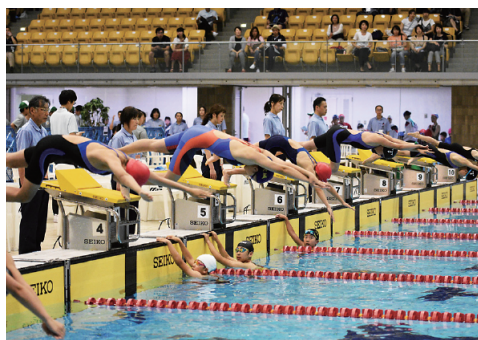
- | | | |
|------------|------------|------------|
| ① 武藤 猛 議員 | ⑥ 所 茂樹 議員 | ⑪ 弓削 仁一 議員 |
| ② 山形由美子 議員 | ⑦ 加藤 恭子 議員 | ⑫ 清水 健司 議員 |
| ③ 大内 健寿 議員 | ⑧ 海野 富男 議員 | ⑬ 鈴木 道生 議員 |
| ④ 宇田 貴子 議員 | ⑨ 樋之口英嗣 議員 | ⑭ 大内 聖仁 議員 |
| ⑤ 雨澤 正 議員 | ⑩ 井坂 章 議員 | |

質問議員本人が選定した2問を掲載しております。なお掲載は登壇の順となっております。

市ホームページで議会録画映像の配信や会議録の検索により一般質問などの詳しい内容もご覧になれます。

<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/shisei/9728.html>

① 武藤 猛 議員



本番さながらの熱戦が繰り広げられた競泳

●国体リハール大会を終了して

問 来年、45年ぶりに茨城国体が開催される。今年のリハール大会として開催されたが、今後の課題について伺う。

市民生活部長 リハール大会を通じて、競技団体との連携や大会関係者などの受付案内、選手の動線の確保、練習会場の運営方法などについての課題を確認することができたので、本大会に向けて改善を図りたい。また、競技会場のトイレについては和式トイレの洋式化改修を図っていくが、スポーツ広場や県有施設については洋式の仮設トイレの設置で対応したい。

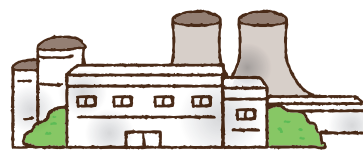
●高場陸橋以東区間の整備について

問 朝夕の交通渋滞が日常化している高場陸橋は、現在4車線化に向けて整備を進めている。しかし、高場陸橋以東区間は2車線であり、4車線化に向けての考え方を伺う。

都市整備部長 東中根高場線の高場陸橋以東、通称「産業道路」の4車線化については、高場陸橋の4車線化の実現や東石川高野線との接続により相当程度、渋滞の緩和ができるものと考えている。しかし、対応しきれない状況が見られる場合には、県道昇格の動向を見据えつつ、現在の幅員での車線の増加など暫定整備の検討も必要になってくるものと考えている。



② 山形 由美子 議員



●老朽原発は再稼働すべきではない

問 東海第二原発は20年延長運転も認可され、いつ再稼働を決めてもおかしくない状況にある。事前了解権を持つ市長は、市民の生活を守るため再稼働に反対を表明すべきであると考えているがいかがか。

市長 事前了解の権限において求められることは、万一の場合の市民の安全確保、避難の実効性などについて議会や市民の皆様のご意見を聞きながら判断するものであると認識している。再稼働問題は市民の安全・生活を最優先に極めて慎重に判断すべき問題であり、実効性のある避難計画を含め、市民の安全が確保されない限り再稼働はできないものと認識している。

◀次ページに続く

②山形 由美子 議員

●高過ぎる国保税の引き下げを

問 国保税は協会けんぽ、組合健保より非常に高い。均等割は子育て世代の負担を重くしている。国保税を引き下げするために均等割廃止と公費負担増を国に求めること、市では早急に独自軽減策を講じることが必要ではないか。

福祉部長 国保は他に比べ世帯加入人数が多いほど保険税の負担が重くなる傾向にある。国の責任において実効ある措置を講じるよう引き続き要望していく。全国市長会議において子どもに係る均等保険料を軽減する支援制度を創設することとして国への提言がなされている。国が取り組むべき課題であり、引き続き要望していく。



③大内 健寿 議員

●市長の政治姿勢について



問 市長就任にあたっての所感と決意について伺う。また、重点施策、選挙期間中の主要な政策である専門学校誘致およびマーケティングの重要性について伺う。

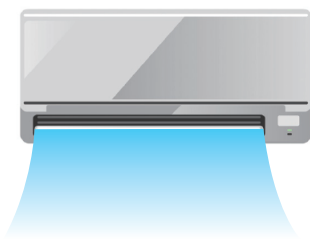
市長 市政運営で大切にしたい基本的姿勢は「市民の声にまっすぐ」である。その声を政策に反映させる大切さについて、職員とも認識を共有し一丸となって取り組む。所信表明で述べた4つの政策を長期的視野に立って推進し人口減少を抑制し安心して住み続けられる活力ある街を実現する。学校誘致は、専門家を目指す学生が市内で学べるよう介護医療分野の専門学校などの誘致に取り組む。マーケティングは市民ニーズの調査分析が重要プロセスである。民間企業などとの連携も視野に入れ、課の設置も含め組織のあり方を検討していく。

④宇田 貴子 議員

●小中学校エアコン整備事業について

問 昨今の温暖化現象、今年の夏は全国各地で最高気温の更新が相次ぎ、学校で熱中症になる子どもも多かった。エアコン整備事業の進捗状況、設置完了時期、稼働時期について伺う。

教育次長 2月中旬の完了を目指し設計業務を進め、終了後は来夏までの設置完了を目指し、速やかに工事を発注していく。全国的に空調機器の需要が急増し、事業者の施工時期も集中することが懸念される中、本市は、各関係組合などに対し工事需要への体制強化と施工に向けての準備を依頼するほか、発注規模を均一化する工夫、各校に授業実施場所を変更するなどの協力要請をしながら、来年夏に稼働できるように取り組んでいく。



●保育の受け皿拡大は喫緊の課題

問 本市の保育園は、特に0、1歳児クラスにおいて年度途中の入園が非常に厳しい状況である。早急に施設整備を行い、保護者の切実な願いに応える必要があると思うがいかがか。

福祉部長 年度途中の職場復帰が円滑にできずに不安を抱いている保護者のことを考えると、さらに受入体制を充実する必要性を感じている。まずはニーズが高い4月入所の受入体制を確保できるように利用定員の増員を予定している。今後は無償化による影響を含め、年度途中入所を含む保護者のニーズなど保育を取り巻く環境を見極めながら受入体制について検討していく。

●大谷市長の政治理念について



問 地方自治は「民主主義・基本的人権の尊重・平和主義」に並ぶ憲法の第4の柱である。市長の市政運営に対する理念を伺う。さらに核兵器平和都市を宣言した市の市長として平和推進事業の考えを伺う。

市長 市政運営にあたっては、市民の福祉の増進を図るため市民の声にまっすぐ向き合いながら、公平・公正で身近に感じられる市政運営に努力していく。戦後73年が経過し、戦争体験者が少なくなる中で悲惨な戦争を風化させてはならないと考えている。平和推進事業は、今後も市民に平和の尊さを考えていただける取り組みを継続して実施していく。



● 新市長の市政運営について

問 生涯いきいきとした生活を送りたいと誰もが理想として持っている。

市長の政策の一つである「生涯いきいき安心の街」について、どのような考えがあるか問う。

市長 専門家を目指す学生が、市内で学び、市内で働くことができるよう、看護学校や医療・福祉分野の専門学校への誘致に向け検討していく。また、定年後に地域デビューする方を応援するため、自治会、コミュニティ活動に関するガイドブックの作成など、あらゆる世代の方が、住み慣れた地域で安心して生活し、活発に活動できるまちづくりを推進していく。



● 市役所業務の効率化について

問 RPA【※】導入は、市職員の働き方改革と市民サービス向上に繋がる。

職員の負担軽減となるRPA導入に対してどのような考えがあるか問う。

総務部長 RPA導入により業務の一部を自動化することが可能となり、職員の負担が軽減されるほか、人的ミスの削減により市民サービスの向上にも大きな効果が期待される。今般、RPAソフトウェアを試験的に導入し、有効性の検証を始めたところである。引き続き検証を進めるとともに、業務の効率化を推進し、職員の負担軽減や市民サービスの向上に繋げていく。

用語解説

※ RPA (Robotic Process Automation)

認知技術(機械学習・人工知能など)を活用した、主にホワイトカラー業務の効率化・自動化の取り組みのこと。人間の補完として業務を遂行できることから、仮想的労働者とも言われている。

● 統合校の男子トイレ個室化について

問 近年小学生の便秘が深刻となっている。学校で大便秘しにくい理由の第一位は、「友達に知られたくないから」で57%にのぼり、社会的課題となっている。そこで統合校の男子トイレを完全個室化すべきと考えるがいかがか。

教育次長 統合校では学年ごとに専用のトイレを設置する計画としている。また通常の男女トイレのほかに、誰でも利用できる多目的トイレを校舎一階に2か所、二階に2か所設置することとしている。このため、男子トイレの個室化を行わなくてもほかの既存校より多く設置される多目的トイレを利用することにより、人の目を気にする児童生徒にも使いやすい環境が用意されるものと考えている。



● 高齢者の肺炎予防対策の継続を

問 高齢者の肺炎球菌感染症の重症化を予防するワクチンの定期接種対象者が、来年度より65歳のみとなる。それに伴い、66歳以上の狭間年齢の独自助成を廃止する自治体もあるが、本市の対応は。

福祉部長 市独自の任意接種として定期接種と同様にワクチン接種費用の一部2,500円を公費助成している。まだ多くの高齢者の方が接種を受けていない状況の中、65歳のみが対象となる来年度以降についても、肺炎の予防や重症化を防ぐために、引き続き市独自の公費助成を行い、66歳以上の方にも接種しやすい環境づくりに努めていく。

● 公立幼稚園の3年保育について

問 専業主婦は孤独、自分の時間が持てないなどでストレスをためやすい。子育てへの過剰な期待や責任から母親を開放していくことが望まれる。早急に公立幼稚園も3歳児保育を実施すべきではないか。

教育長 3歳までは家庭において親などの親しい人との関わりを重視するとの考えから、4歳児以上保育を実施してきた。しかし近年は少子化や核家族化の進行など、家庭環境や社会環境が大きく変化しており、幼児教育施設における3歳児保育の実施の有効性は高まってきている。今後は幼児教育の無償化も見据え、公立幼稚園における3歳児保育について、検討を進めていく。



市立勝倉・市毛幼稚園交流会の様子



◀ 次ページに続く